

学界消息

史学研究会関係

二月例会

二月四日(土) 午後一時

於 京大薬友会館

アフガニスタン東北部の旅 酒井敏明氏

トンガ調査紀行談

畷内芳彦氏

(共にスライド使用)

前用理事の留学

前川貞次郎理事は、三月五日文部省派遣

留学生としてフランス・ソルボンヌ大学

へ留学のため出発された。期間は一ケ年

の予定。

国史関係

読史会予餞会 三月三日(金) 於京園

三月三日(金) 午後四時より京園において

小栗田・赤松・柴田教授、岸・上横手助教

授のほか、大学院・学部学生ら四〇名が集

まり、本年度卒業生の前途を祝して歓談し

た。

東洋史関係

旧制大学院会例会

一月四日(土) 薬友会館

武漢とくに漢口の商業的発達の研究

について

笹本 重巳

二月一日(土) 薬友会館

北周の儒教

兼子 秀利

三月一日(土) 薬友会館

西魏の計帳・戸籍

西村 元佑

四月一日(土) 史学科会議室

奥村郁三「唐代裁判手続法」 中谷 英雄

新制大学院会例会

一月一七日(火) 薬友会館

アフガニスタン・パキスタンより帰つて

二月二一日(火) 史学科会議室

アルタン汗とその時代

小谷 仲男

三月三日(金) 東洋史研究室

唐憲宗朝に於ける社会経済上の二・三

の問題

横山 裕男

清代の捐納と中国社会

近藤 秀樹

塚本善隆教授退官記念講演会

二月八日(水)

京都大学人文科学研究所

講堂

学界遍歴四十五年

S・N・クレーマー教授公開講演

文学部第八教室

二月二七日(月)

Sumerian Literature; The world's

Oldest Letters.

二月二八日(火)

Education in Sumner; Man's First

Schools.

Sumerian Character and Personality

; Drives, Motives and Values.

東洋史談話会講演会

二月二八日(土) 薬友会館

アフガニスタンの考古学的遺跡

小谷 仲男

東洋史談話会予餞会

二月二八日(土) 午後四時より薬友会館に

於いて開催。

西洋史関係

西洋史読書会例会

四月二十二日(土) 於西洋史研究室

ドイツ近代史研究の新しい視角

——三月革命の基礎過程分析について

の一試論、松田智雄氏批判——

西洋史読書会第八回春季大会

四月二十九日(土) 午前九時半から、於薬

大島 隆雄

友会館

ブルタルコスにおける政治思想

小 貫 徹

フランス・ペーコンと古典

植 村 雅 彦

ホルス考——R. Arthes の研究を中心に

加 藤 一 朗

一資料の解説——シュメール小作納貢制

荒 武 鉄 郎

に因する——

服 部 春 彦

十八世紀ロシア輕工業の性格について

中 原 与 茂 九 郎

革命前後におけるニューヨーク非合法

茨 木 慶 三

政治機関について

村 岡 健 次

チャーチスト運動の歴史像

村 岡 健 次

Historiens Modernes et historiens au

mojen âge

B. Lacroix

人文地理学関係

卒業論文発表会及び予備会

二月二十五日(土)午後二時より

学部卒業生四名、修士課程修了者三名の論文発表会を教室において開き、その後下鴨

糺ノ森の生活科学研究所ダリルにおいて予備会を行なった。織田教授以下、教官、先輩、学生約四〇名が参加し、卒業生の抱負

をきき、前途を祝した。

昭和三六年度新専攻生歓迎会

四月二十九日(祝)午後三時より、新装成つた河原町三条、「アサヒ・ビヤホール」にて、新専攻生六名の歓迎会を行なった。参加者は織田教授以下教官・卒業生・学生など約五〇名。地理学教室の今昔などを語りながら、盛会裡に散会した。

人文地理学会第四〇会例会

二月一八日(土)午後二時於京都大学文学部

北東アフガニスタンの自然と生活

酒 井 敏 明

五木村の焼畑と村落

佐々木高明

考古学関係

考古学談話会

三月二日(木) 於楽友会館

昭和三五年度卒業論文ならびに修士論文の発表会を行った。

芦屋旭塚古墳の発掘

二月一日から約二週間、旭化成芦屋寮の増築工事にもなつて発見された大型の横穴式石室を、小林講師・小野山助手が調査した。

堺市経塚古墳の発掘

一深をめぐらした前方後円墳。近く破壊されることになつたので、小林講師・小野山助手等が調査中である。主体部は木棺二個からなり、封土の構成と、埴輪列についても、くわしく調査が行われつつある。

京都大学文学部史学科卒業論文題目

国史学専攻

都市共同体の形成 射 場 俊 郎

伊那谷における平田門人の動向 薄 井 武 介

長洲藩における討幕論の形成 大 野 耕 一

伝統主義の系譜 岡 本 健 一

——鷹峰光悦町の形成と

解体をめぐつて——

北一輝の思想 鈴 木 備

わが国警察の確立とその特質 武 田 早 代 子

中世農村構造に関する一考察 藤 野 立 恵

——北陸真宗教団の発展を通じて——

中世後期の農民構造 村 田 修 三

——丹波国山国荘の場合——

〔修士課程〕

民間呪術における権化信仰の形成 上 田 さ ち 子

成

近代における農業政策の展開 松 本 久 子

明治前半期における家制度  
——扶養法を通して——

藤原 怜子

私度僧發生の側面  
——唐代の童行制度を中心に——

藤原 真澄

Caprii 時代のプロイセンとドイツ帝國

松本 順

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

幕末・維新期の農業問題

有泉 貞夫

辛亥革命前における利権回収運動

堀川 哲男

英領インドにおける近代綿業の成立

日本中世の領主制について

工藤 敬一

顔之推の人と思想

吉川 忠夫

革新運動への腐敗暴露記者の寄与について

幕藩体制と封建地代

酒井 一

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕  
唐憲宗朝をめぐる社会経済上の二三の問題

横山 裕男

Lincoln Steffens を中心に

東洋史学専攻

六朝時代之修史官

稻葉 一郎

清代の捐納と中国社会

近藤 秀樹

共和制ローマに於ける中小農民研究  
——その実態と共和制崩壊への作用について——

——唐代史館制度成立史序説——  
山西商人を通じて見た清代商業の一考察

狭間 直樹

西洋史学専攻

山田 邦見

三月革命とドイツ統一運動  
〔修士課程〕  
ロシア輕工業における農奴制と資本制  
——十八世紀中葉での労働力市場の形成——

戊戌政変について

平田 正衛

ナチス抬頭の社会的背景  
——中間層のナチス支持について——

杉山 吉朗

チャーチスト運動の歴史像  
——特にランク・アンド・ファイルについて——

西突厥の西トルキスタン支配について

間野 英二

イランをめぐる列強と Beza Khan のクーデター

米田 治泰

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕  
シュメール都市国家研究の二、三の問題点について

——統葉護可汗の時代を中心に——

渡辺 耕

ビザンツ帝國におけるエビボレー制度

水野 芳英

現代ドイツにおける「リベラル・インベリアリズム」と中欧理念

〔修士課程〕

北宋時代における開封の商人

小野寺郁夫

川淵 吉男

正樹 健次

——山東の門銀を中心にして——

谷口規矩雄

興隆

荒武 鉄郎

村岡 健次

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

——

地理学専攻

会津盆地の都市地理研究

岩下 芳秋

福井平野とその周辺における中世の城館

小林健太郎

相模原市工場誘置の地理学的諸問題

佐々木 裕

佐賀平野の開発過程と搦干拓

野田 茂生

〔修士課程〕

古代倉敷の地理的位置について

足利 健亮

都市の規模・機能・成長と産業構造

小森 星児

中国における少数民族と辺境問題

斎藤 晨二

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

地理学史上のビエル・ダイについて

高橋 正

考古学専攻

近畿地方の古墳群と古代豪族との関係

堤 圭三郎

北米の Burial Mound 期文化

鶴巻 省吾

本邦玻璃製品について

吉本 堯俊

〔修士課程〕 Hand-axe 文化の生成とその発展 河原 純之

銅鑄の諸問題

佐原 真

会 告

本会委員中村幹雄氏は、大阪学芸大学赴任のため三月三十一日を以て辞任し、代つて山本茂氏が委嘱されました。右お知らせいたします。

史学研究会

正 誤 表

四四巻二号所載「東国出身の防人達」に、次の誤植がありましたので訂正いたします。  
一三〇頁下段七行目

〔誤〕而後、接乎開元・朔方・隴右・河東・河西諸鎮、  
〔正〕而後、接乎開元・朔方・隴右・河東・河西諸鎮、

編集後記

さわやかな新緑の候がめぐつて参りましたが、会員の皆様には、お変わりなくお励みのことと存じます。本号から「批判と反省」欄を粧を新たにして復活いたしました。一読されればおわかりと存じますが、日本史・東洋史・西洋史・地理・考古学が互に協同しあう、という本会の特色を生かして、専攻外の学問に対して、特に方法論や研究の現状に対して批判を加えようと思図しています。皆様の御意見と御投稿をお待ちいたします。なお、本会の財団法人改組の件ですが、文部省の認可が未だおりておりません。従いまして、四四巻一号でおことわりいたしました会員名簿の発行も今しばらくお待ちいただきたく、重ねてお願い申し上げます。(山本茂)

史 林 (第四四巻第三号)

一九六一年四月二十五日発行  
一九六一年五月一日発刊

定価一八〇円

発行所 京都市左京区吉田木町  
京都大学文学部内

史 学 研 究 会  
理事 長 振替京都五一五五番  
編集主任 宮崎市定  
赤松俊秀

印刷所 京都市下京区西七条御所ノ内東町三九  
中村印刷株式会社